

十勝川中流部市民協働会議_活動記録 (9)

帯工環境土木科 3 年生による自主研究

テーマ：光南地区水辺の楽校における流木の腐朽について (2 回目)

この活動は、帯広工業高等学校環境土木科 3 年生の有志 3 名により、H28 に発生した洪水被害による大量の流木について、流木の産廃処理を行わなくても、時間の経過とともに流木が自然に戻るまでの過程を調査したいとの志を受け、その活動に対して支援を行うものであります。

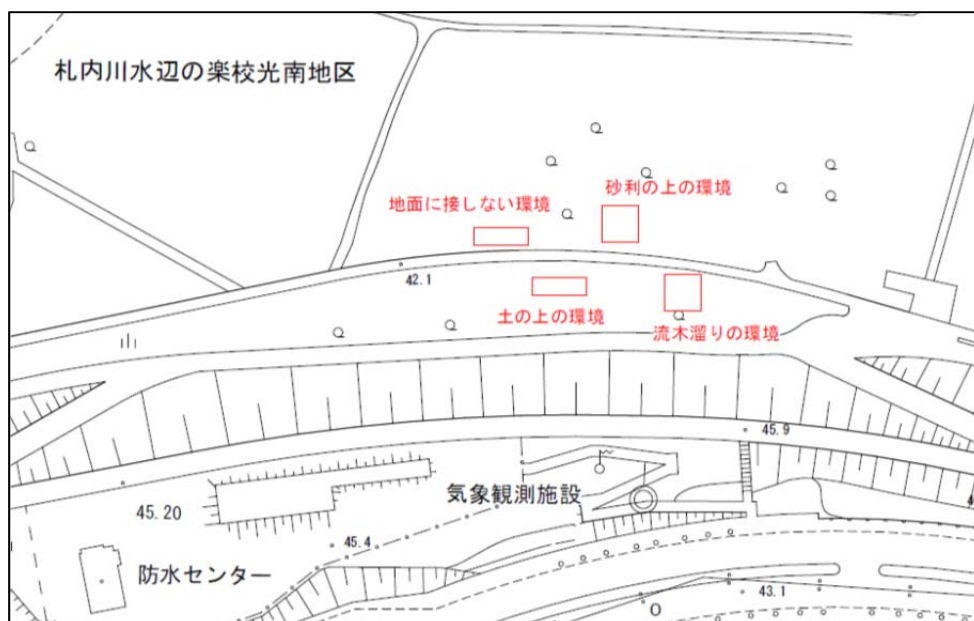
今年 2 回目の調査として、定期的調査のデータ収集と、翌日 pH と EC の計測を行いました。



今年の活動を行う環境土木科 3 年生の 3 名

- 日 時：平成 30 年 7 月 25 日 (水) 13:00~16:00
26 日 (木) 13:00~14:00
- 参加者：帯広工業高等学校 環境土木科 3 名+教諭 1 名
十勝川中流部市民協働会議事務局 2 名
- 場所：25 日 札内川光南地区 防災ステーション集合、光南地区 水辺の楽校
26 日 帯広工業高校
- 調査内容：25 日 硬度計測 (針による貫入試験) と水分計測 (含水比測定)
26 日 学内で pH・EC 計測

調査箇所図



活動支援内容：硬度計測（針による貫入試験）と水分計測（含水比測定）…25日

調査の内容は昨年に引き続き、木材の放置環境の違いによる腐朽速度を比較することを目的に、木材の水分量（含水比）の計測と硬度計針貫入試験による木材硬度の計測を行いました。

これらの調査を継続的に行い、流木が腐朽（朽ちる）し、土に戻るまでの様子を記録することで、将来の河川維持管理に役立てられる貴重な資料になるものと考え、十中協はこの活動を支援していきます。



水分量の計測風景



硬度計の貫入試験の様子

● 調査箇所

[調査箇所：既存林の林床における環境]



[調査箇所：土壌に非接触の環境]



[調査箇所：礫質土に接触する環境]



[調査箇所：流木塊中の環境]



・「既存林の林床における環境」では、調査を対象にしている流木にキノコが生えているのが見られました。これも腐朽の兆しとなるのかを観察していきます。



・以下の写真（左）は、大量の流木堆積を除去した後の箇所、写真（右）は、除去前（昨年）の状況になります。

流木の腐朽が進み、ブルドーザーなどで踏みつけるだけでこのような状況に成れば理想と考えています。



活動支援内容：PH（水素イオン指数）、EC（電気伝導率）の計測…26日

25日に調査した各調査区の試料木から、木片を切り出し細かく砕き、5倍の水道水に一昼夜浸漬し、26日学内で水素イオン指数（pH）及び電気伝導率（EC）を計測しました。

